

第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	1-1	第1回推進会議
作成課・担当	健康長寿政策課・三谷・佐々木	

大目標 I	具体的な施策名	学校等における健康教育・環境づくり	【構想冊子p.20】
第3期構想の目標	子どもの頃からの健康な生活習慣が実践される 目標値:副読本を活用した健康教育の実施率100%、ヘルスマイトによる食育教育の実施100校/年		
現状(課題)	・副読本活用率(H30.3月末) 小学校:196/196 100% 中学校:100% 高等学校 61/61 100% 小学校・中学校・高校ともに100%活用できている。 ・食育講座(H29年度) 実施校 小学校81校・中学校14校、実施数122回(小学校100回 中学校 22回)		
本年度の目指すところ	・副読本を活用した健康教育の実施率100%を維持し、好事例の横展開により取組の質の向上を目指す。 ・子どもの食習慣改善に向け、ヘルスマイトによる食育教育の取組をさらに進める。 目標:100校/年		
取り組みのポイント	主体的な学びとなるよう、ワークシートの追加など、小学生用の副読本の内容充実と見直し ヘルスマイトによる健康教育は、学校の多い高知市については、課題のある学校を中心により効果的な実施を目指す。		

月	平成30年度の具体的な進め方		
対策	①学校における健康教育		②ヘルスマイトによる健康教育
区分	健康教育の実施	副読本の見直し	食育を通じた健康教育と家庭への波及
4月	校長会、市町村教育委員会、学校関係機関へ今年度の取組周知(通年)		
5月	副読本の印刷・配布(4~6月)	副読本改定ワーキング準備会(5月)	学校数が多い高知市は、健康教育を実施する学校の取り組みを市教委と検討(4月)
	子どもの健康教育講師派遣事業の周知・実施(通年)	・副読本の活用状況の詳細、活用事例の確認	ヘルスマイトへの事業説明、教材の作成、印刷(5月)
6月		副読本改定ワーキングの開催(第1回)	ヘルスマイトによる食育講座の開始(6月~)
7月	栄養教諭・学校栄養職員資質向上研修会(6月)健康教育推進研修会(7月)での取組周知		
8月	副読本活用状況調査の実施(中間:7月)		
	養護教諭等対象の喫煙防止教育研修会(7月)	副読本改定ワーキングの開催(第2回)	ヘルスマイト理事会において事業の進捗管理を確認(7月)
9月			
10月	高知県健康づくり推進協議会 子ども支援専門部会(10月)		ヘルスマイト理事会で次年度事業について協議(10月)
11月	(議題) ・副読本の活用状況について ・副読本改定案について ・食育を通じた健康教育の取組について		
	学校保健推進研修会(11月)での取組周知		
12月		副読本改定ワーキングの開催(第3回)	ヘルスマイトによる食育講座アンケートの集計・事業効果の分析(11月-2月)
1月		・最終案の確定	
2月	副読本活用状況調査の実施(最終:3月)		
3月	副読本等健康教育教材の印刷準備(3月)		ヘルスマイト理事会で次年度事業について協議(3月)

第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO 1-2 第1回推進会議

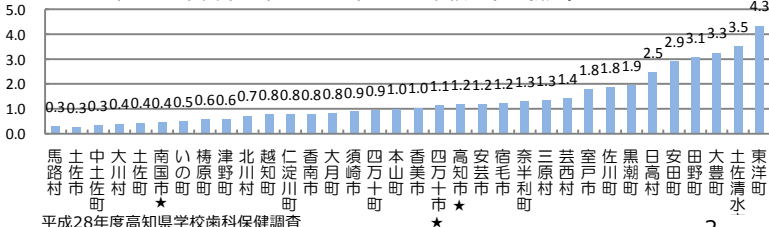
作成課・担当 健康長寿政策課・三谷

大目標 I	具体的な施策名	子どもの頃からの歯と口の健康づくりの推進	【構想冊子p.21】
第3期構想の目標	保育園・幼稚園等でのフッ素洗口の実施割合 目標値 80%以上 一人平均むし歯数(12歳) 0.5本以下		
現状(課題)	保育園・幼稚園等でのフッ素洗口実施率(H21→H29) 10.0%→59.3% 一人平均むし歯数(12歳)(H22→H28) 1.5本→0.97本 フッ素洗口実施率は増加傾向であり、平均むし歯数も減少傾向ではあるが、市町村別みると実施率がまだ低い市町村があり、むし歯数も目標値には達していない。		
本年度の目指すところ	フッ化物洗口の実施率が低い市町村を対象とし、学校・保育関係者との調整等のきめ細かな支援を実施することで実施につなげ、全体の実施率を向上させる。また、フォローアップが必要な施設については、その取組についての指導等支援を行う。		
取組のポイント	市町村やPTAに対するフッ化物洗口実施に向けた個別協議の実施 県歯科医師会等の協力を得て、学校関係者への働きかけの実施		

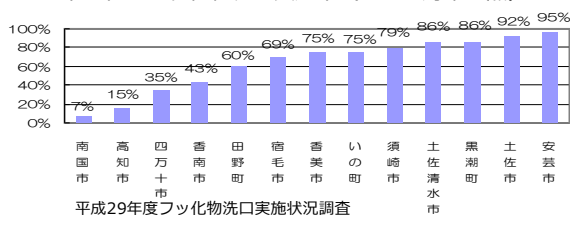
月	平成30年度の具体的な進め方		
対策	学校関係者への働きかけ	実施率が低い3市への対策	
4月	校長会、市町村教育委員会、学校関係機関へ今年度の取組周知(通年)		
5月	フッ化物洗口実施状況調査結果を踏まえた福祉保健所との協議		
6月	フッ化物洗口実施状況調査結果を歯科医師会との協議		
6月	フッ化物応用推進事業の市町村周知		
6月	フッ化物洗口実施施設のフォローアップ取りまとめ	南国市支援 歯科医師会と実施率向上に向けた協議 ・保育園は増加見込 ・歯科医師会と働きかけについて協議	四万十市支援 市教委と協議 ・保育園は6割から8割に増加見込 ・歯科医師会轄多支部長と教委へ説明予定
6月		高知市支援 ・高知市保健所と協議 ・教委との協議 ・高知市フッ化物洗口マニュアル(H30.3)を活用	
7月	栄養教諭・学校栄養職員資質向上研修会(6月)健康教育推進研修会(7月)での取組周知 ・県内の実施率の状況報告、取組協力の依頼		
8月	歯と口の健康づくり推進協議会 ・歯と口の健康づくり基本計画に基づいた平成29年度の取組等		
9月	フッ化物洗口実施施設のフォローアップ	市保健衛生主管課及び市教委と協議	教委との協議
10月	学校長会・保護者会での説明		
11月	希望者調査		
11月	予算確保に向けた協議		
12月	次年度からの取組に向けた準備		
12月	各圏域での歯科保健検討会による検討		
1月	・各圏域での進捗管理、全体の課題把握、対策の検討		
2月	市保健衛生主管課及び市教委と取組に向けた協議		
2月	歯と口の健康づくり推進協議会 ・歯と口の健康づくり基本計画に基づいた平成30年度の取組、平成31年度の取組予定等		
3月	フッ化物洗口実施状況調査の実施		

- 実施施設数
- 幼稚園・保育園・子ども園**
- ・南国市3/19
 - ・四万十市：11/18
 - ・高知市：22/114
- 小学校**
- ・南国市：0/14
 - ・四万十市：2/14
 - ・高知市：6/43
- 中学校**
- ・南国市：0/6
 - ・四万十市：1/12
 - ・高知市：3/28
- ※H30.3月時点

平成28年度市町村別 1人平均むし歯数(12歳児)



市町村別フッ化物洗口実施率(H30.3月末時点)



第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画（P）】

シートNO	1-3	第1回推進会議
作成課・担当	健康長寿政策課 武田	

大目標 I 具体的な施策名 健康づくりの県民運動「ヘルシー・高知家・プロジェクト」

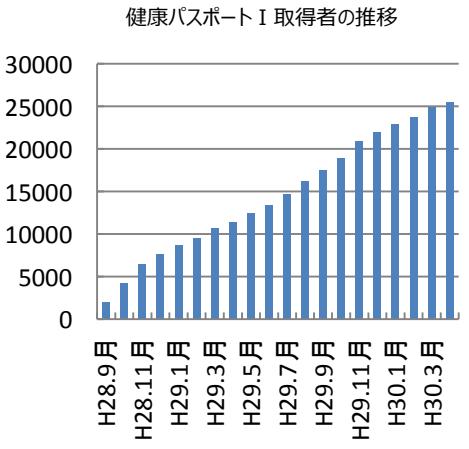
【構想冊子p.22・23】

第3期構想の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全市町村で高知家健康パスポート事業が活用されている ・健康パスポート取得者40,000人以上
現状（課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・H30は全市町村で健康パスポートを活用したインセンティブ事業を実施（H28:6市町村、H29:27市町村） ・パスポート取得者は25,539人（H30.4月末）、目標を上回るペースで増加しているが健康行動を継続・定着させるためのランクアップはまだ不十分 ・取得機会に男女差はないものの、男性の取得が女性に比べて少ない（男女比はおおよそ1：2）
本年度の目指すところ	<ul style="list-style-type: none"> ・パスポートⅢ、健康マイスターの導入や特典の充実など、さらなる魅力化を図る ・個人が取り組む健康づくり（日々のウォーキングや家庭血圧測定など）を手軽に評価できる仕組みづくり ・健康経営として企業における健康パスポートの活用を働きかけ、壮年期男性の取得率向上を図る
取り組みのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・パスポートⅢ（H30.4月）、健康マイスター（H30.9月）へのランクアップの実施及び特典の充実 ・健康パスポートのアプリ導入（H30.9月予定） ・高知県ワークライフバランス推進企業認証制度「健康経営部門」の認証促進（認証には健康パスポートの活用が必須） ・こうち健康企業プロジェクト（高知新聞主催）による「高知家健康経営アワード」の実施

平成30年度の具体的な進め方

月	健康パスポート事業	健康経営に取り組む事業所への支援
4月	健康パスポートⅢ開始 （広報4月） ・さんSUN高知4月号 ・PRパンフレット発行 ・市町村広報紙掲載	高知県ワークライフバランス推進企業認証制度「健康経営部門」開始 ・業界団体の研修会での周知や、企業への戸別訪問による周知・申請への働きかけ（県・福祉保健所・協定締結損保会社） ・協会けんぽ、東京海上との協働による健康経営の普及促進
5月	健康パスポートプロポーザル審査会 （委託内容） ・パスポートの作成・配布 ・啓発資材の作成 ・テレビCM作成放送、ホームページ管理 ・アプリ開発	職場の健康づくり応援研修会（6～8月） ・県内6ブロックで開催 ・ワークライフバランス推進企業認証制度への申請及び健康経営アワードへのエントリーの働きかけ
6月		「高知家健康経営アワード」選考会、受賞企業決定 こうち健康企業プロジェクト「高知家健康経営アワード」募集開始
7月	・参加施設開拓（7月） ・アプリ操作テスト、パスポート取得者データベース運用テスト（8月）	「高知家健康経営アワード」選考会、受賞企業決定 こうち健康企業プロジェクトセミナー開催、アワード表彰式 ・健康経営アワード受賞企業を高知新聞紙面で紹介（12月）
8月	健康マイスター制度運用に係る市町村説明会	「高知家健康経営アワード」選考会、受賞企業決定 こうち健康企業プロジェクトセミナー開催、アワード表彰式
9月	健康マイスター開始及びアプリ配信 （広報9月） ・さんSUN高知9月号 ・テレビCM放送（たばこ・高血圧含む） ・PRパンフレット発行	「高知家健康経営アワード」選考会、受賞企業決定 こうち健康企業プロジェクトセミナー開催、アワード表彰式
10月	健康パスポート取得イベント 中部・東部・西部（9-11月）	「高知家健康経営アワード」選考会、受賞企業決定 こうち健康企業プロジェクトセミナー開催、アワード表彰式
11月	・参加施設開拓（11～12月）	「高知家健康経営アワード」選考会、受賞企業決定 こうち健康企業プロジェクトセミナー開催、アワード表彰式
12月		「高知家健康経営アワード」選考会、受賞企業決定 こうち健康企業プロジェクトセミナー開催、アワード表彰式
1月	H31実施準備 健康パスポートプロポーザル審査会	
2月	健康パスポート取得イベント（龍馬マラソン開催時）	
3月	市町村・参加施設向け説明会	こうち健康企業プロジェクト次年度事業打合せ

パスポート I	パスポート II	パスポート III
25,539人	3,502人	878人
ランクアップ率	13.7% (Ⅱ/Ⅰ)	25.1% (Ⅲ/Ⅱ)



第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	1-5	第1回推進会議
作成課・担当	健康長寿政策課・三谷、濱崎	

大目標 I	具体的な施策名	たばこ対策・高血圧対策	【構想冊子p.25】
第3期構想の目標	【第4期よさこい健康プラン21の目標】 (たばこ対策)成人の喫煙率の減少 男性20%以下、女性5%以下 受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する人の割合 家庭3%以下、職場10%以下、飲食店14%以下 (高血圧対策)収縮期血圧の平均値(40歳以上) 130mmHg以下 収縮期血圧130mmHg以上の人の割合(40歳以上) 45%以下 降圧剤服用者での収縮期血圧140mmHg以上の人の割合(特定健診受診者) 30%未満		
現状(課題)	(たばこ対策)成人の喫煙率(H23→H28) 男性32.1%→28.6%(△3.5%) 女性9.2%→7.4%(△1.8%) 受動喫煙の機会を有する人の割合(H23→H28) 家庭9.2%→8.5%(△0.7%)、職場33.1%→28.9%(△4.2%)、飲食店43.0%→38.5%(△4.5%) 喫煙率、受動喫煙の機会を有する人の割合ともに減少傾向ではあるが、職場や飲食店での受動喫煙の機会を有する人の割合は未だ高い割合であり、受動喫煙対策のさらなる推進が必要である。 (高血圧)収縮期血圧130mmHg以上の人の割合(H21→H28)男性66.3%→57.6%(△8.7%)、女性61.2%→55.3%(△5.9%) 減少傾向にあるが、未だ5割以上が血圧130mmHg以上の状況である。		
本年度の目指すところ	(たばこ対策)受動喫煙防止の環境整備をさらに進めるため、フォーラムにより関係機関等への周知を図る、受動喫煙防止対策を実施する施設である空気もおいしい認定店、ノンスモーカー応援施設の認定を進める。 (高血圧対策)収縮期血圧130mmHg以上の人の割合をさらに減少させるため、血圧自己測定の普及啓発		
取組のポイント	(たばこ対策)健康増進法改正にあわせた受動喫煙防止対策の強化 (高血圧対策)これまでの医療機関、薬局、高血圧サポーター企業等との連携に加えて、高知家健康パスポート事業のアプリの活用による家庭血圧測定及び記録の啓発強化		

月	平成30年度の具体的な進め方			
対策	①たばこ対策		②高血圧対策	
区分	禁煙対策	受動喫煙対策	高血圧(たばこを含む)の危険性や家庭血圧の測定と記録の指導強化	
4月	市町村のインセンティブ事業により、禁煙・家庭血圧測定を促進(22市町村)(通年)		受動喫煙防止対策を実施する施設 ・空気もおいしい！ 認定店 24施設 ・ノンスモーカー応援施設 18施設 (H29認定数) ・空気もおいしい！ 認定店 214施設 ・ノンスモーカー応援施設 377施設 (H29年度末総数)	
5月	赤ちゃん会での啓発(4月)	空気もおいしい、ノンスモーカー応援施設周知(通年)		高血圧サポーター認定企業(509社)へポスター等による啓発依頼(5月)
6月	世界禁煙デーにあわせた周知(5月)	健康づくり支援薬局説明会で禁煙指導協力依頼(6月)		医療機関(約430機関)、薬局(約400機関)、健診機関(15機関)による高血圧指導教材を活用した指導への協力を依頼(5~6月)
7月		健康増進法改正にあわせて関係機関へ働きかけ		健康づくり支援薬局(264機関)説明会で高血圧指導協力依頼(6月)
8月				減塩プロジェクト 店頭POP等による啓発依頼(9月)
9月		法改正の動きに併せた受動喫煙対策県フォーラムの開催(9月)		高知家健康パスポート事業のアプリを活用した家庭血圧測定と記録の促進の啓発(9月~)
10月				・H29年度特定健診結果から高血圧者の血圧値の変更を分析
11月	禁煙治療指導者スキルアップ(とさ禁煙サポーターズフォローアップ研修)(11月)			「薬と健康の週間」に合わせた健康づくり支援薬局での健康相談や啓発等の実施(10月)
12月	e-ラーニングによる禁煙指導スキルアップ研修(12~2月)	受動喫煙防止対策実施状況調査(12月)		
1月		結果集計から関係機関への働きかけ(1月~)		保健医療従事者のスキルアップを目的とした血管病対策研修会の開催(1月)
2月				
3月				

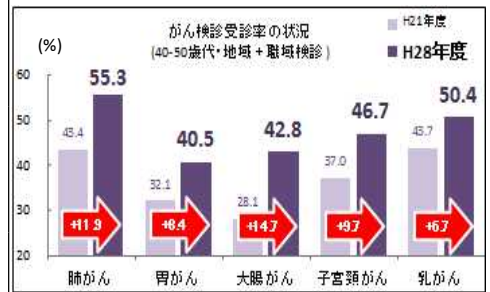
第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	1-6	第1回推進会議
作成課・担当	健康対策課・林	

大目標○	具体的な施策名	がん検診の受診促進	【構想冊子p.26】
第3期構想の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の意義・重要性が浸透するとともに、利便性の向上により受診行動に結びついている ・がん検診受診率(40～50歳代) 胃・大腸・子宮頸:50%、肺・乳:現受診率の維持・上昇 		
現状(課題)	<p>がん検診受診率は上昇傾向にあり、肺がん検診と乳がん検診は目標値(50%)を達成。その他の検診も上昇しているが目標に届いていない。未受診理由「忙しい」「面倒」が上位のままであることから、継続した取り組みが必要。</p> <p>(H28)肺55.3% 胃40.5% 大腸42.8% 子宮頸46.7% 乳50.4%</p>		
本年度の目指すところ	<p>がん検診受診率の向上に向けて、引き続き粘り強く検診の意義・重要性を周知していくとともに、特に大腸がん検診について利便性を一層高める検診体制の構築を図る。</p>		
取り組みのポイント	<p>①テレビCMや啓発イベントの開催などマスメディア等を活用した効果的な広報や、医療機関を含め事業者への働き掛けを行う。</p> <p>②大腸がん検診のセット化促進や冬期の郵送回収事業について市町村に働き掛けていく。</p>		

平成30年度の具体的な進め方

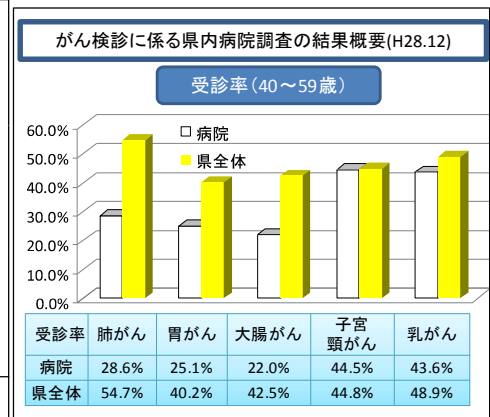
月	①検診の意義・重要性を周知	②利便性を考慮した検診体制の構築
4月	<p>(1)市町村への支援</p> <p>市町村による個別通知開始</p> <p>(2)県としての取り組み</p> <p>県ホームページの充実</p> <p>市町村検診日程、自己負担額の掲載</p> <p>市町村担当者会(5月)</p>	<p>セット検診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営補助員配置決定 <p>乳・子宮頸がんの土曜日検診周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発チラシ作成
5月	<p>医療機関への勧奨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師会等への依頼(5月) <p>マスメディア等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TVCM、新聞広告 	
6月	<p>優良事業所認定事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29優良事業所認定 ・H30参加事業所募集 <p>マスメディア等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TVCM、新聞広告 <p>事業所へ働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容室へ啓発ステッカー配布 <p>市町村担当者会</p>	<p>広域検診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場候補地交渉
7月	<p>マスメディア等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TVCM、新聞広告 <p>イベント開催(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん無料検診 ・啓発資材配布 ・パネル展示 ・クイズラリー等 <p>病院への勧奨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員への受診勧奨、広域検診の周知依頼 	<p>広域検診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告(12月) ・募集開始(12月) <p>大腸がん郵送検診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検体受取期間(12～2月)
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月	<p>啓発資材の改訂</p>	<p>広域検診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診実施(1～2月:5日間)
3月		



■H28年度県民世論調査(40～59歳 複数回答)

順位	未受診理由	順位	健康情報の入手のしやすさ
1位	忙しくて時間が取れない(46.0%)	1位	テレビ(54.3%)
2位	受けるのが面倒(25.9%)	2位	県・市町村広報紙(37.1%)
3位	必要な時は医療機関を受診(21.9%)	3位	新聞(31.4%)
4位	がん検診の内容・雰囲気から不安(13.8%)	4位	チラシ(20.0%)
5位	がん検診を受診できることを知らなかった(8.0%)	5位	インターネット(14.2%)

※がん検診を受診できることを知らなかった方への再質問



対象	県内の病院の女性従事者(医療職種以外も含む) *回答率:66.2%(130病院中86病院)
方法・期間	各病院において15名ずつ抽出による無記名回答(2016年8～9月)
質問内容	過去1年の受診状況、受診に必要な取組等。 *受診率は、過去1年間(市町村検診、人間ドック含む)の受診率について(子宮・乳は過去2年)。

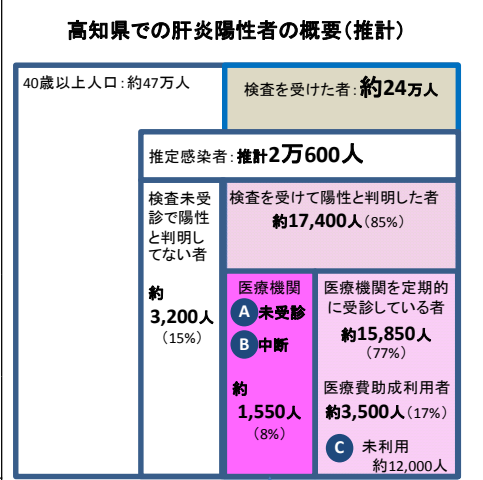
第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	1-7	第1回推進会議
作成課・担当	健康対策課・宮地	

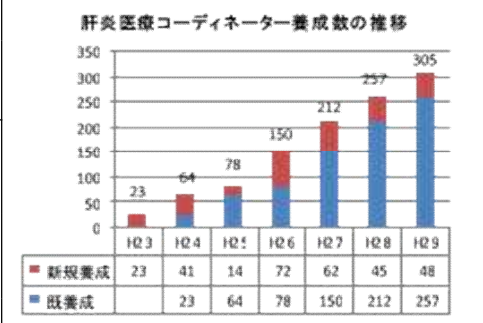
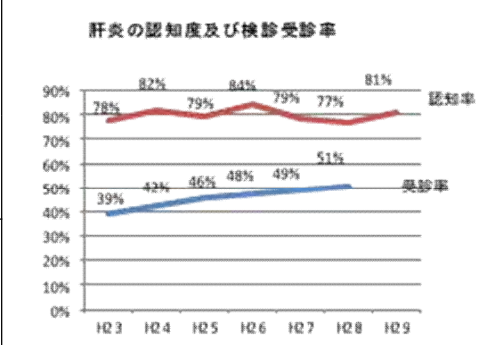
大目標 I	具体的な施策名	ウイルス性肝炎対策の推進	【構想冊子p.27】
第3期構想の目標	肝がん死亡率(75歳未満年齢調整死亡率) … 4.5以下 肝炎陽性者の精密検査受診率 … 90%以上		
現状(課題)	誰もが感染する可能性のあった時期(S63まで)から、がん化と言われる30年を経たが、検査で陽性と判明したにも関わらず、標準的な治療につながっていない事例があり、肝がん死亡率(75歳未満年齢調整死亡率)は全国よりも高くなっている。 (H28) 高知県:6.4 全国:5.1		
本年度の目指すところ	検査で陽性となった者のうち、「医療機関未受診者」には県及び市町村等のコーディネーターにより、「精密検査は受けたが治療開始に至っていない者」には医療機関のコーディネーターにより保健指導を充実強化するとともに、県民へのウイルス性肝炎の広報啓発を行い、肝炎陽性者の精密検査受診率向上及び肝がん死亡率改善を目指す。		
取り組みのポイント	①県民への広報等:ウイルス性肝炎について、集客力のあるイベント等において、無料検査を併せて実施しながら広報啓発を行う。 ②保健指導等の充実:精密検査費用の自己負担分を助成するとともに、肝炎治療コーディネーターを養成し保健指導を充実する。		

平成30年度の具体的な進め方

月	①県民への広報等	②保健指導等の充実
4月	広報等の準備 1. イベント広報の業者委託 2. 肝炎ウイルス検査の委託 3. 福祉保健所の肝炎無料検査実施 広報等の開始 ・イベント開催準備	通年での保健指導等実施 1. 検査で陽性となった者で医療機関未受診の A に対し市町村等のコーディネーターにより受診指導 2. 治療開始がされていない B 及び C の一部に医療機関のコーディネーターにより指導 3. 精密検査受診者の医療費自己負担分の助成 医療機関のコーディネーターによる院内調査の促進 ・医療機関が把握している陽性者 (B C) の治療状況把握と受診勧奨の実施を促す
5月		コーディネーターによる保健指導の実施及び精密検査費用の助成
6月		
7月	イベント前広報 ・県広報ラジオ、テレビ など	
8月	イベント広報実施 7/28 イオン高知 9月 須崎ゆるキャラまつり(予定) 10月 ゆず収穫祭(予定)	
9月	1. 無料肝炎検査実施 2. 啓発素材の配布 3. その他啓発の実施 4. アンケート実施	
10月	コーディネーター研修の開催(10月) ・既養成者の再研修 ・他機関での取り組み紹介	
11月		
12月	感染症対策協議会肝炎部会でのH30年度の取り組み評価とH31年度の活動計画の検討	
1月		
2月		
3月		



・陽性と判明しているのに、医療機関への継続的な受診につながっていない方への対策が必要



第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO 1-8 第1回推進会議
作成課・担当 国民健康保険課・山中 健康長寿政策課・濱崎

大目標 I	具体的な施策名	特定健診受診率・特定保健指導実施率の向上対策	【構想冊子p.28】
第3期構想の目標	特定健診受診率…全国平均以上、市町村国保特定保健指導の終了率…全国平均以上		
現状(課題)	<p>【特定健診】・受診率は上昇傾向にあり、全国との差は縮小はしているものの、全国平均には到達していない (H28市町村国保：高知県35.9%、全国36.6%、H27保険者全体：高知県46.6%、全国50.1%) ・40歳代前半の特定健診受診率が一番低い・高知市と協会けんぽ被扶養者の受診率が低い</p> <p>【特定保健指導】・実施率は横ばい傾向であり、全国平均には到達していない (H28市町村国保：高知県19.3%、全国26.3%、H27全体：高知県14.6%、全国17.5%) ・栄養士会の特定保健指導実施件数は伸びているが、さらなる拡大が必要 (H29 352件…H27県全体1.32%相当)</p>		
本年度の目指すところ	<p>・特定健診については、40歳代前半の受診率を向上させるため、市町村国保の40歳代前半をターゲットにした啓発を行うとともに、高知市や協会けんぽ被扶養者の受診率を向上させるため、再勧奨等の取り組みのPDCAを徹底する。</p> <p>・特定保健指導については、マンパワー不足対策として、高知県栄養士会の受託体制を強化し、特定保健指導実施件数を増やすとともに、その他の受託機関についても体制強化の支援方法を検討する。</p>		
取り組みのポイント	<p>・新規対象者の入り口対策及び継続受診の促進を目指し、市町村国保の40歳代前半に対して受診勧奨リーフレットを作成・配付</p> <p>・高知市の特定健診・特定保健指導のPDCAを徹底する・協会けんぽ被扶養者への再勧奨を徹底する</p> <p>・特定保健指導受託機関の実態把握を行い、体制強化のための支援方法を検討する</p>		

月	平成30年度の具体的な進め方		
	①特定健康診査	②特定保健指導	
4月	健康づくり団体連携促進事業費補助金による市町村への助成(随時申請)	高知県栄養士会への補助事業(随時)	<p>①特定健康診査</p> <p>●特定健診の性別・年齢階級別受診率(H27)</p> <p>●特定健診受診率(市町村国保)の対前年度同月比比較(4月)</p>
5月	国保所管課への国調整交付金活用の働きかけ	高知市との個別協議	
6月	市町村衛生部門への国保との連携の働きかけ	実施率向上を妨げている要因の再分析	
7月	医師会と連携し、かかりつけ医からの受診勧奨を依頼(6月)	特定保健指導従事者スキルアップ研修(第1回)	
8月	市町村ヒアリング(8月～9月)	市町村ヒアリング(8月～9月)	
9月	受診勧奨事業等の次年度予算化への働きかけ	特定保健指導従事者スキルアップ研修(第2回)	
10月	高知市との個別協議	高知市との個別協議	<p>【高知市の取り組みについて】(特定健診)</p> <p>・委託内容の拡大(通知、電話による受診勧奨件数の拡大及び訪問の追加) 受診勧奨数H29 延べ2万5千人→H30 延べ5万人</p> <p>(特定保健指導)</p> <p>・委託内容の拡大(委託期間を延長し、介入対象者を拡大)</p>
11月	年度末に向け、受診勧奨等の取組の強化を働きかけ	特定保健指導従事者スキルアップ研修(第3回)	<p>②特定保健指導</p> <p>【栄養士会による取り組み実績】 H28 234件 →H29 352件 →H30 400件 (見込み)</p>
12月	市町村の受診勧奨事業等の次年度予算状況及び事業計画の確認	市町村の受診勧奨事業等の次年度予算状況及び事業計画の確認	
1月	事業評価	事業評価	
2月	事業評価	事業評価	
3月	事業評価	事業評価	

第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	1-9	第1回推進会議
作成課・担当	国民健康保険課・山中、健康長寿政策課・濱崎 医療政策課・堀池	

大目標 I	具体的な施策名	血管病の重症化予防対策	【構想冊子p.29】
第三期構想の目標	・健診後の未治療ハイリスク者割合(市町村国保)減少傾向・糖尿病の治療中断者の割合(市町村国保)減少傾向		
現状(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・未治療ハイリスク者及び治療中断者への保険者による受診勧奨の体制は構築できたが、対象者への介入率が100%に至っていない。 ・医療機関の受診率が2割前後にとどまっている。 ・今年度新たに取り組む治療中で重症化リスクの高い者への保険者とかかりつけ医との連携について、各圏域での体制構築が必要。 ・外来栄養食事指導件数が伸び悩んでいる 		
本年度の目指すところ	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への介入率を向上するために、対象者抽出ツールを改良し、対象者の把握及び介入の迅速化を図るとともに、保健指導実施者の資質向上を行い、医療機関受診率を向上させる。 ・治療中で重症化リスクのある方への支援のさらなる促進を図るために、地域別糖尿病講演会等を開催し、保険者とかかりつけ医との連携体制の強化を図る ・外来栄養食事指導の件数が少ない理由について調査を行う。 		
取り組みのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者抽出ツールを改良し、国保連合会から市町村に毎月対象者を通知 ・資質向上研修会や、糖尿病医療体制検討会議委員と連携した地域別糖尿病講演会等の開催 ・各地域において医師・管理栄養士に対して直接的に働きかけを行う。 		

月	平成30年度の具体的な進め方		
	①糖尿病性腎症重症化予防プログラムの取り組み	②診療所と病院が連携した栄養指導の実施	
4月	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">(2月)関係機関への説明会開催 糖尿病性腎症重症化予防リーフレットの活用開始</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; background-color: #f8d7da;">対象者一覧作成ツール改良 完成まで毎月対象者リストを国保連合会が 手作業で作成</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県栄養士会との契約</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">医療機関に事業の周知及び 協力依頼</div>	平成28年度取り組み結果 <未治療ハイリスク者> 介入対象者数941名 a 介入者数 811名 b (介入率86.2%...b/a) 受診者数216名 C (医療機関受診率 23.0%...c/a) (保健指導成功率 26.6%...c/b)
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【ツール改良の内容】 ・介入対象者に治療中で重症化リスクの高い者を追加 ・医療機関受診年月の把握</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市町村担当者会の開催(5/17)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H30取り組み開始 (毎月対象者リストを市町村に配付)</div>	医療機関 に対して 働きかけ	<治療中断者> 介入対象者数 261名 a 介入者数 105名 b (介入率 40.2%...b/a) 受診者数42名 C (医療機関受診率 16.1%...c/a) (保健指導成功率 40.0%...c/b)
6月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">受診勧奨・保健指導</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国保主管課へのヒアリングを 実施(5月~6月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">血管病重症化予防対策研修会 の開催(6月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域別糖尿病講演会等の開催 (6月~7月)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・医療機関及び市町村への重症化予防の 取組の重要性を周知</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">幅多地区管理栄養士の会合 (5/17)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">幅多地区の医療従事者の会合</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">管理栄養士への外来 栄養食事指導スキル 向上研修(6/2予定)</div>	
7月	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">H29取組状況の最終評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・取組状況に課題がある市町村へ の働きかけ(随時) ・新ツール完成</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協力医療機関の実績 集計</div>	
8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新ツールにより対象者を市町村へ通知</div>		
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">糖尿病医療体制検討会議(9月)</div> ・プログラムの取り組みの課題整理と対策の検討		
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">次年度取組内容の確認</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協力医療機関の実 績集計</div>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・受診勧奨等の次年度事業計画の 確認 ・市町村からの意見に基づきツール の再改良の必要性について検討 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">管理栄養士等への外 来栄養食事指導スキ ル向上研修</div>	
12月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H30取組状況の中間評価</div>		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の介入者数・アプローチ 効果を確認 ・未受診者への再勧奨 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協力医療機関の実績集計分 析、事業効果の検証</div>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・取組状況に課題がある市町村へ の働きかけ(随時) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">外来栄養食事指導の 効果の周知</div>	
3月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H30取組状況の最終評価 はH31.6予定</div>		

第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	1-10	第1回推進会議
作成課・担当	健康長寿政策課・三谷	

大目標 I	具体的な施策名	歯周病予防による全身疾患対策	【構想冊子p.30】
第3期構想の目標	40歳代で進行した歯周病(4mm以上の歯周ポケットあり)に罹患している人の割合 25%以下 妊婦歯科健診を受診する妊婦の増加 受診率50%以上		
現状(課題)	40歳代で進行した歯周病を有する者の割合(通院患者)(H23→H27) 38.9%→49.2%(+10.3%) 妊婦歯科健診を受診する妊婦 受診率32.5%(H30.2月時点) 進行した歯周病を有する者の割合は増加傾向にあり、歯周病が及ぼす影響についての効果的な普及啓発が必要。また、妊婦歯科健診も受診率は目標値には達していないため、受診率の向上が必要である。		
本年度の目指すところ	全身疾患対策として、歯周病に対する県民の理解と対応の促進のため、テレビCM等マスメディアを活用し、歯周病がもたらす影響と予防についての普及啓発を強化する。また、早産・低体重児出産を予防するために、妊婦歯科健診で定期的に受診できるような産科からの働きかけを促す。		
取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦への情報提供及び指導体制の強化(産婦人科からの指導強化) ・定期的な歯科健診受診の重要性や歯周病と糖尿病・脳卒中・心疾患等との関連についての普及啓発(テレビCM等マスメディアを活用した普及啓発の実施) 		

月	平成30年度の具体的な進め方		
	①妊婦の歯周病予防対策	②歯周病の普及啓発	
4月	市町村への妊婦歯科健診事業説明会の開催(4月)		<p>歯周病が関連するといわれる主な病気</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病 肺炎 がん 早産・低体重児出産 <p> ← 歯周病が病気の原因になる ⇨ 歯周病を悪化させる ⇨ 副作用を悪化させる </p>
5月	産婦人科へ受診勧奨依頼(5月) 29年度の受診率集計作業・結果を市町村にフィードバック(5月)	県歯科医師会と啓発時期・方法を協議(5月)	
6月	産婦人科へ受診勧奨依頼のための個別訪問実施(6月)		
7月	歯と口の健康づくり推進協議会による検討 ・取組の現状報告、課題について協議		
8月	31年度以降の妊婦歯科健診の実施方法を検討・市町村等と協議	パンフレット等を活用した対象を絞った啓発 健康づくり支援薬局、健診機関、あったかふれあいセンター、集落活動センター等で周知	
9月	妊婦歯科健診事業の最終評価分析用データ提供依頼(8月末) 妊婦歯科健診事業の最終評価分析の実施(9-10月)		
10月	市町村説明会の開催(10月) ・市町村事業としていくための説明会	テレビCM等マスメディアを活用した県民全体を対象とした啓発(10-11月) ・定期歯科健診の重要性 ・歯周病と血管病等との関連	
11月			
12月	市町村のH31事業実施予定の把握(12月) ・市町村と歯科医師会との委託契約支援		
1月			
2月			
3月	歯と口の健康づくり推進協議会(3月) ・県事業としての報告、次年度からの動きについて報告		

第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO 2-13 第1回推進会議

作成課・担当 健康長寿政策課・三谷

大目標Ⅱ	具体的な施策名	在宅歯科医療の推進	【構想冊子p.47】
第3期の構想	訪問歯科診療の利用が進み、在宅療養者のADL及びQOLが向上する 目標値：在宅歯科医療連携室の利用件数 高知：年間200件以上、幡多100件以上		
現状（課題）	<ul style="list-style-type: none"> 在宅歯科連携室利用件数 高知171件、幡多92件（H30.2時点） 高知連携室はここ3年は目標を下回っているが、幡多連携室の設置により利用総件数は増加。 在宅訪問診療時のケアを実施できる歯科衛生士が少なく（量・質）、在宅歯科従事者の技術の向上が課題 		
本年度の目指すところ	<ol style="list-style-type: none"> 利用件数増加のため、在宅支援のキーマンとなるケアマネ等の支援者、また、在宅療養患者及び家族への周知を強化。 課題とされている介護予防や要介護者口腔ケアなどをテーマとし、専門知識の習得に加え、手技を身につけるための実技研修を組み込んだ研修を実施し、在宅歯科従事者のスキルアップを図る。 		
取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 高知版地域包括ケアシステムへの対応 医科・介護等との連携、相談窓口、訪問歯科診療の調整機能の強化、ケアマネパンフ作成、マスメディアを活用した県民向け、啓発 多職種連携協議会や研修等の開催 歯科衛生士養成奨学金の創設による将来在宅歯科を担う歯科衛生士確保対策 		

月	平成30年度の具体的な進め方																	
	①在宅歯科医療連携室の機能強化	②在宅歯科に携わる人材の育成・確保																
4月	幡多の連携室が四万十市民病院へ移転 研修会の開催（4月） ・摂食嚥下に関する研修（歯科医療従事者対象）	H30.3 高知学園短期大学に奨学金制度の説明 H30.4 高知学園短期大学学生に奨学金制度周知、その他関係団体へ周知 ・関係機関、県内高等学校、中四国・近畿養成施設（42施設）	利用件数の推移（H23-H29） 															
5月	歯科医師会との協議（5月）	高知学園短期大学と平成30年度研修計画の打合せ <研修の狙い> ・在宅歯科診療のスキルアップ ・口腔機能向上等介護予防のスキルアップ ・災害時等の口腔ケアのスキルアップ など																
6月	連携室の稼働状況確認（6月）																	
7月	関係機関への訪問（病院・施設）PR 多職種連携協議に関する検討（8月）	第1回人材育成研修会の実施（7月） 奨学金の貸付（前期）	在宅歯科医療連携室の体制 <table border="1"> <thead> <tr> <th>体制</th> <th>高知の連携室</th> <th>幡多の連携室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>場所</td> <td>高知県歯科医師会館内</td> <td>四万十市立市民病院西棟内（H30.4.22に移転）</td> </tr> <tr> <td>スタッフ数</td> <td>常勤1人、非常勤1人</td> <td>常勤1人、臨時0.5人</td> </tr> <tr> <td>対応エリア</td> <td>県内全域（幡多エリア除く）</td> <td>幡多保健医療圏</td> </tr> <tr> <td>開設日</td> <td>月～金</td> <td>月～金</td> </tr> </tbody> </table>	体制	高知の連携室	幡多の連携室	場所	高知県歯科医師会館内	四万十市立市民病院西棟内（H30.4.22に移転）	スタッフ数	常勤1人、非常勤1人	常勤1人、臨時0.5人	対応エリア	県内全域（幡多エリア除く）	幡多保健医療圏	開設日	月～金	月～金
体制	高知の連携室	幡多の連携室																
場所	高知県歯科医師会館内	四万十市立市民病院西棟内（H30.4.22に移転）																
スタッフ数	常勤1人、非常勤1人	常勤1人、臨時0.5人																
対応エリア	県内全域（幡多エリア除く）	幡多保健医療圏																
開設日	月～金	月～金																
8月	ケアマネ向けPRパンフレット作成 ↓ 在宅歯科診療の保険診療のポイントを整理配布	要望に応じて県内高等学校等に奨学金説明																
9月	ケアマネ向けPRパンフレットPR（居宅介護支援事業所等）																	
10月	連携室の稼働状況確認（10月）	第2回人材育成研修会の実施（10月）																
11月	マスメディア等を活用した県民に向けた連携室のPR（11-12月）																	
12月		奨学金の貸付（後期）																
1月	多職種連携協議会による運用等に関する検討（1月）	第3回人材育成研修会の実施（1月）	1 歯科診療所当たりの歯科衛生士の従事者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>県全体</th> <th>安芸</th> <th>中央</th> <th>高幡</th> <th>幡多</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.2人</td> <td>2.1人</td> <td>2.5人</td> <td>1.4人</td> <td>1.1人</td> <td>1.5人</td> </tr> </tbody> </table>	県全体	安芸	中央	高幡	幡多	全国	2.2人	2.1人	2.5人	1.4人	1.1人	1.5人			
県全体	安芸	中央		高幡	幡多	全国												
2.2人	2.1人	2.5人		1.4人	1.1人	1.5人												
2月																		
3月	歯と口の健康づくり推進協議会（3月） 県歯科医師会と次年度に向けた調整・協議（3月）	高知学園短期大学と次年度に向けた調整・協議（3月）																

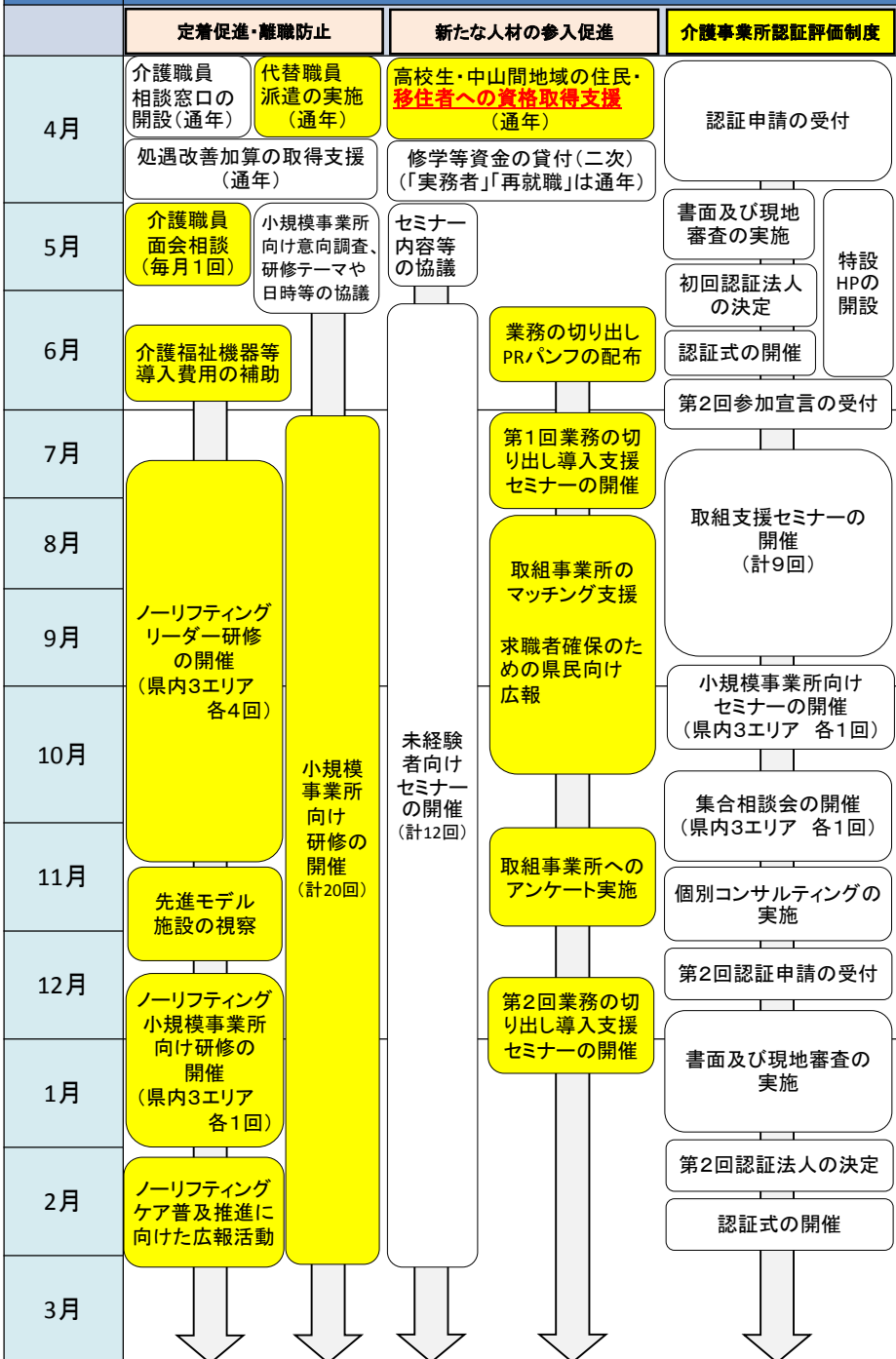
第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	5-1	第1回推進会議
作成課・担当	地域福祉政策課 池田	

大目標V	具体的な施策名	医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化	【構想冊子p.8,82,83】
------	---------	------------------------------	-----------------

第3期構想の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得支援策の抜本強化や福祉人材センターのマッチング力の強化による新たな人材の参入が進んでいる。 ・福祉研修センターの研修体制の充実等によりキャリアアップ支援が図られ、職員の定着が促進している。 ・介護事業所認証評価制度により職場環境が改善し、離職率が低下している。 [定量的な目標値] ①(県支援)介護職員初任者研修の修了者 242人 ②潜在介護福祉士等の就業者数 10人 ③介護職場における離職率14.6% ④介護福祉士養成校への入学者数 73人 ⑤福祉人材センターにおける就職者数 200人
現状(課題)	[目標の現状]① 102人、② 56人、③ 15.8%(H27)、④ 43人、⑤ 364人 ※下線は目標を達成したものの。 [課題]マッチングについては一定成果が見られているものの(②、⑤)、学生を始めとする新規参入については目標との乖離が依然大きい状況となっている(①、④)。このため、介護業界のネガティブイメージの払拭、新たな人材の掘り起こしや柔軟な勤務スタイルの創出などによる多様な人材層の参入(①、④への対応)、安心して長く続けられる魅力ある職場づくり(③への対応)の加速が必要。
本年度の目指すところ	[30年度の目標]① 242人、② 前年同程度、③ 14.6%、④ 73人、⑤ 前年同程度
取り組みのポイント	ノーリフティングケアの普及や小規模事業所向けのキャリアアップ支援等を通じた定着促進・離職防止対策(目標③に対応)と、移住者への資格取得や業務の切り出し等による多様な人材の参入促進策(目標①、②、④、⑤に対応)を進める。加えて、本年度より本格実施する「介護事業所認証評価制度」により、介護業界全体のネガティブイメージを払拭し、人材確保の好循環を実現する。

平成30年度の具体的な進め方



①県が支援する介護職員初任者研修の修了者 (H30目標:242人)

	修了者合計	内訳		
		中山間	高校生	教委分
H24	99	99	—	—
H25	36	36	—	—
H26	18	18	—	—
H27	38	38	—	—
H28	143	64	58	21
H29	102	39	46	17

(県、県教委 調査)

②潜在介護福祉士等※の就業者数 (H30目標:10人)

H24	—
H25	—
H26	—
H27	—
H28	40
H29	56

(福祉人材センター調査)

※潜在介護福祉士等とは、介護福祉士や初任者研修等修了者で、人材センターに登録している離職中の方

③介護職場における離職率(県調査/3年に1回) (H30目標:14.6%)

H25	14.7%
H28	15.8%

(県 調査)

④介護福祉士養成校への入学者数 (H30目標:73人)

	入学者数	うち委託訓練		
		訓練生で卒業	訓練生で就職	
H24	101	40	34	33
H25	120	20	17	17
H26	95	22	19	19
H27	79	19	19	16
H28	59	20	18	16
H29	60	14		
H30	43	4		

(介護福祉士養成校 調査)

⑤福祉人材センター 就職者数 (H30目標:200人)

	人材センター	ハローワーク	計
H25	122	2,480	2,602
H26	176	2,537	2,713
H27	340	2,264	2,604
H28	350	2,336	2,686
H29	364	2,236	2,600

(福祉人材センター、ハローワーク 調査)

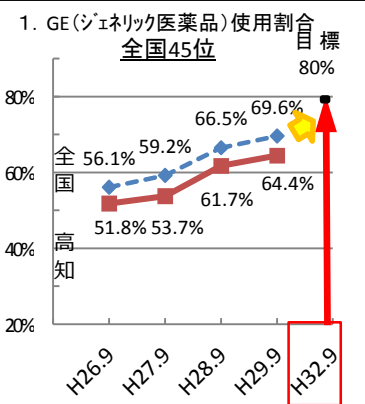
第3期日本一の健康長寿県構想 平成30年度 PDCAシート【年間計画(P)】

シートNO	nn	第1回推進会議
作成課・担当	医事薬務課・高尾	

大目標Ⅱ	具体的な施策名	医薬品の適正使用等の推進	【構想冊子p.46】
第3期構想の目標	・ジェネリック医薬品の使用割合の増（国の目標：H32年9月 全国80%） ・在宅訪問実施薬局数 100薬局以上		
現状（課題）	・ジェネリック医薬品使用割合 65.4%（全国45位） 全国平均 70.9%（H29.12現在） ・在宅訪問実施薬局数 95薬局（H28年度 薬剤師会調べ） 【課題】 在宅で療養する高齢者を中心に服薬状況が悪い（要因：多剤傾向、服薬支援者不在、理解力（認知機能等）の低下）		
本年の目指すところ	・高知県薬剤師会及び3医療保険者との協働により、保険者よりジェネリック医薬品の差額通知に加え、重複投薬に通知を開始するとともに、服薬サポーターを配置して、通知を受け取った対象者を薬局等に繋げることにより、ジェネリック医薬品の使用促進と重複投薬の是正を図り、患者のQOLの向上と医療費（薬剤費）の適正化を推進する ・医療・介護従事者との連携による在宅患者の服薬支援体制を整備、定着を図り、高齢者を中心に服薬確認を徹底するとともに、在宅訪問や地域ケア会議に参加する薬局薬剤師数を増やす		
取り組みのポイント	・レセプトデータから抽出した対象患者への個別勧奨と薬局・病院等へのジェネリック医薬品使用の働きかけ ・在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」を県下全域に拡大して実施		

平成30年度の具体的な進め方

月	ジェネリック医薬品の使用促進	重複投薬の是正	在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」
事業広報（通年）			
4月	②レセプト分析で抽出した薬局への働きかけ ・大手チェーン薬局（6社：86薬局）との意見交換（4半期ごと） ・薬局への働きかけ（通年）	関係者（医療保険者、薬剤師会等）との協議（通年：月1～2回程度）	薬剤師会との協議（通年：月1～2回程度） ①薬局や在宅での服薬確認の徹底 ・年間スケジュールの確認 ・支部ワーキングの進め方 ・アンケート調査項目・研修内容 ・OJT研修・PDCA等
5月	②レセプト分析で抽出した病院への働きかけ（通年） ・20病院程度	医療・介護関係機関への事業説明 ・訪問看護ST連絡協（4月） ・介護支援専門員連絡協（5月）	
薬剤師会支部単位での事業説明会及び意見交換会			
6月	後発医薬品安心使用促進協議会	研修の実施（年5回程度） ・在宅訪問薬剤師養成研修会 ・多職種連携に係る研修会等	
7月	④県全域に拡大して事業開始		
8月	③服薬サポーターによる個別勧奨開始予定（後期高齢から順次）		
9月	支部ワーキング（2ヶ月に1回程度） ・高知家お薬プロジェクトのPDCA ・薬業連携方法の検討 ・事例報告会について ・次年度事業の進め方 等		
「薬と健康の週間」イベント（10月）			
10月	ジェネリック医薬品セミナー（10月）	OJT研修（在宅訪問、地域ケア会議）（10月～12月）	
11月			
12月			
1月	後発医薬品安心使用促進協議会	事例分析 ・7～12月の実績分析	
2月	多職種へのアンケート調査及び分析		
3月	事例報告会（2月～3月 県内3ヶ所程度）		



2. GE差額通知・重複通知開始時期等

保険者	GE		重複投薬	
	通知月	通知頻度	開始月	通知頻度
国保	4月～	毎月	10月～	毎月
後期高齢	6月～	3ヶ月毎	8月～	3ヶ月毎
協会けんぽ	8月～	6ヶ月毎	9月～	6ヶ月毎

